

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウィッシュかがみの		
○保護者評価実施期間	令和6年11月18日		～ 令和6年12月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和6年11月18日		～ 令和6年12月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【環境・体制整備】 子どもの活動等のスペースは十分に確保され、職員配置も基準(児童発達支援管理責任者1名、保育士等2名)+2名(保育士、5年以上の児童指導員)を常勤で配置している。	【環境・体制整備】 子ども達の過ごしに合わせて、エリアを分けたり、パーティション等で仕切りを設けている。カウムダウン(落ち着ける場所)エリアを用意している。パーティションやマットの位置等、利用するメンバーに合わせて変えている。	・利用するメンバーに合わせて環境調整をする。子どもの様子に合わせてその都度改善をはかる。 ・職員の定着を図る。
2	【業務改善】 毎朝、30分程、職員全員が顔を合わせて、前日の振り返りを行い、PDCAサイクルをまわしている。職員の資質向上のために、県社協や療育福祉センター主催の研修に参加している。PECSの初級研修に毎年1名参加している。	【業務改善】 研修受講者は、職員会議等で報告し、情報を共有している。	・気になったことや気づいたことを、一人ひとりの職員が当事者意識を持ってより発信するように努める。
3	【適切な支援の提供】 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、支援終了後には振り返りを行っている。子どもの「したい」「やりたい」を応援することを基本指針としている。	【適切な支援の提供】 管理者、児童発達支援管理責任者は、全ての子どもの記録に目を通している。個別支援計画の担当は2年毎に変更して、視点を広げるように努めている。	・自分の担当以外の子どもの個別支援計画に、より目を向けるように努める。朝の振り返り等の時間を活用する。
4	【保護者への説明】 帰りの迎えの際に、事業所の様子に加え、学校や家庭での出来事について対面で話をする時間がある。年4回、個別支援計画の説明で、対面で話をする時間を設けている。	【保護者への説明】 帰りの迎えの際での話や個別支援計画面談での話、担当者会等での話を、朝礼の時間を使い、情報共有している。	【保護者への説明】 家族から聞いたニーズを、できるだけ支援現場に落とし込めるように努める(ADL、余暇、友達関係、就労など)
5			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【環境・体制整備】 活動室や廊下等が広すぎて、時に子どもが高揚しやすいこともある。エレベーターがなく3階で活動しているので、移動に困難を抱える子どもにとっては使いにくい。活動室に洗面所がないため、手洗い等はトイレまで移動する必要がある。小学1年生～高校3年生まで利用しているので、椅子や机のサイズが一人ひとりに合っていないこともある。	【環境・体制整備】 予算がない。建物の構造上、3階に水回りを設置しにくい。	・パーティションを用いて、空間を仕切ったり、気にならない(見えない)ようにしている。 ・手洗い時に、移動が難しい時には、手指消毒をして衛生に努めている。 ・予算の範囲内で、子どもに合った椅子等の備品をそろえていく。
2	【業務改善】 第三者評価を行っていない。外部の評価を行っていない。	【業務改善】 予算がない。客観的な視点に欠けることにもつながる。	・ボランティアの受入れなど外部の目を入れる。 ・事業所見学をして視点を広げる。
3	【非常時の対応】 非常時のマニュアルは整備され、訓練・研修等も実施しているが、周知されていない。	【非常時の対応】 掲示物が小さくて読みにくい。職員自身も、内容の理解に差がある。	【非常時の対応】 職員の理解度を高める。